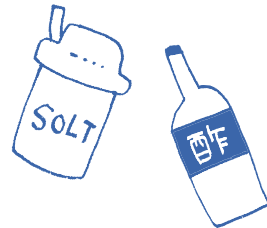


商品安全 検査センターから

「味覚官能検査」を 行っています。

組合員さんからいつも利用している商品の「味が違う」とか、「変わった臭いがする」といったお申し出を受けたとき、また商品開発、仕入れの段階で、「味」をきちんと評価できるように、商品検査センターでは、官能検査やトレーニングのカリキュラムづくりを進めています。



官能検査と人間の感覚

「検査」というと、実験器具や機器を使った測定のイメージがありますが、この官能検査は人の感覚による検査です。機器の方がより精密に測れるのでは？と思われるかもしれませんが、人間の五感、それを越えた感度を備えているのです。実際、ある異臭成分などは、機器では測れないほど微量でも人間は「くさい」と感じ取れる、といわれています。食品分析を専門とする機関でも、この官能検査を1つの検査手法として取り入れているところもあります。迅速に結果を出せるところが魅力ですが、一方で、その日の体調などにより感覚にバラツキが発生する可能性があります。このバラツキを最小限に抑え、精度をよくしていくために官能検査のための「トレーニング」を実施しています。

味覚のトレーニング

「味覚」のトレーニングは、人間の舌が感じる限界程度の濃度に調製された「甘味」「塩味」「酸味」「苦味」「うま味」の5つの味が、きちんと感じ当てられるかをテストします。中には何も入っていない「無味＝蒸留水」が含まれており、正確に味を感じられているかどうか試されます。このトレーニングは検査センターだけではなく、商品の仕入れに関係する者や、組合員さんからのお申し出を受け取るメンバーも加わり、定期的に取り組んでいます。合否だけでなく、何回もテストすることで自分の得意な味、不得意な味を知ることでもあります。日々「家族に美味しい食事を」と味覚を研ぎ澄ませている、組合員の皆さんのご要望にお応えできるよう、職員一同、トレーニングに励んでいます。

check!

「味覚向上5か条」生活を豊かにするヒントにもなりますので、参考にしてみてください。

- ① 「おいしい」気持ちを共有する
- ② 味を見つける
- ③ 調理方法を想像する
- ④ 使われている調味料や材料を探る
- ⑤ 食べ物の周辺情報を知る・楽しむ

(東京都ホームページより引用)



2014年度 第4回理事会だより | 9 / 10 |

① 8月期決算について承認しました

8月期事業結果 単位: 百万円

	8月実績	予算差(%)	累計実績	予算差(%)
商品の供給高	2,078	89	10,359	339
総事業高	2,146	86	10,685	330
事業経費	510	-5	2,372	-53
経常剰余金	-22	22	71	158

組合員数 223,061名 計画比99.8% (加入625名)
出資金 38億7,850万円 一人当たり出資金17,388円

② コープぎふの平和活動の考え方を分かりやすい言葉で示す(平和憲章(仮称)づくり)を、組合員さんのご意見を伺い進めていくことが確認されました。

③ 今年度の福祉活動助成基金の運営委員会の委員と、助成に関わる要件の見直しについて確認されました。

④ 旧西濃北支所の土地及び建物を売却することが確認されました。

⑤ 平和の署名活動として「ふたたび被爆者をつくらない決意を世界に！現行法改正を求める請願署名」(岐阜県被爆者の会)、「核兵器禁止条約の交渉を求める署名」(日本生活協同組合連合会)の2つの署名に、取り組むことを確認しました。



第11回

3・11を忘れない みやぎ生協から 被災地・宮城のいまをお伝えします

コープぎふは、
東日本大震災の復興対策に
継続して取り組んでいます



販路喪失と風評被害からの回復をめざして
宮城は日本有数の水産県で、多種多様な水産物を国内外に送り出しています。
大震災の発生から3年半。漁船や養殖施設の復旧に伴い、水産物の生産量は少しずつ回復しています。近海カツオ・マグロなどの水揚げは6〜7割、養殖の銀ザケは約8割、ワカメは震災前の水準を超えました。ことしの初夏には、生育に3年かかるホヤが、震災後初めて収穫されています。カキの生産量減少や価格低迷、復旧工事の遅れなど、厳しい状況は変わらず続いています。海は徐々にかつての豊かさを取り戻しつつあります。



「生協さんをはじめ、関係機関と一緒に販売活動に取り組んでいきたい」と話す丹野一雄さん(宮城県漁協経営管理委員会会長)



ことし5月、岸壁の復旧工事が終わった気仙沼魚市場。2013年の水揚げ量は、震災前の66%に止まりました

しかし最大の課題は、その水産物の販路をどう確保するかです。「震災で宮城の水産物供給がストップしている間に、他の産地に取って代わられてしまった」。宮城県漁協の丹野一雄会長は、販

産業は、震災で多大な打撃を受けただけでなく、風評被害という負荷も背負うことになったのです。放射性物質検査で基準を超える水産物は一切流通させていないにも関わらず、「風評」はいまでも続いており「県や国の協力を得ながら解消していくしかない」のが現状です。
一方、そこで踏みとどまることなく「これまで以上に販売力を強化していきたい」と考える丹野会長。宮城の水産物をPRするため、関西でも販売促進イベントを予定しています。「震災だから協力してほしい」という時期は過ぎた。宮城の水産物は美味しいので買ってほしい、と自信を持ってお奨めしていきます。



おいしい♪楽しい♪コープぎふ15周年「つながりあって『ぎふ』まるごと」実感フェスタ」
10月11日(土)・12日(日)岐阜産業会館(岐阜市)にて開催しました。
2日間で延べ1万人の方にご来場いただき、コープぎふの商品を試食していただいたり、生協の事業や地域と共同で行う取り組みなどを紹介しました。また、組合員さんの活動や声も紹介し、コープぎふをまるごと実感いただいた組合員さん、ありがとうございました。詳しくはDEKO 12月号でご紹介します。お楽しみに！